

令和 4 年度介護保険施設等における口腔ケア等実態状況調査報告書

I 目的

この調査は、都内の介護保険施設(訪問看護ステーションを含む。)等における口腔ケアや定期的な歯科健診の実施状況を把握することにより、東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」の達成度を評価するとともに、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な課題等を把握し、次期歯科保健推進計画を策定するための基礎資料を得ることを目的とする。

II 対象及び方法

1 対象者

都内介護保険施設等の管理者及び都内の訪問看護ステーションの管理者

2 実施方法

(1) 特別養護老人ホーム、養護老人ホーム

各施設に調査票を郵送で配布(令和 5 年1月 25 日)し、回答方法は選択式(質問紙、又は Web フォーム)とし、令和5年2月 13 日を期限として回収した。

(2) 介護老人保健施設

各施設に調査用紙を郵送(令和 5 年1月 25 日)し、回答方法は選択式(質問紙、又は Web フォーム)とし、令和5年2月 13 日を期限として回収した。

(3) 有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、都市型軽費老人ホーム

各施設に調査用紙を郵送(令和 5 年1月 25 日)し、回答方法は選択式(質問紙、又は Web フォーム)とし、令和5年2月 13 日を期限として回収した。

(4) 訪問看護ステーション

各施設に調査用紙を郵送(令和 5 年1月 25 日)し、回答方法は選択式(質問紙、又は Web フォーム)とし、令和5年2月 13 日を期限として回収した。

3 調査項目

(1) 介護保険施設等

ア 利用者の歯科健診及び歯科治療について

- ・入所施設における定期的な歯科健診の状況
- ・入所施設における歯科受診先の選び方
- ・入所施設における歯科治療の受診形態
- ・入所施設における歯科治療の受診状況の把握
- ・通所施設における定期的な歯科健診の受診状況の把握
- ・通所施設における歯科治療の受診状況の把握
- ・通所施設におけるかかりつけ歯科医の有無の把握

- イ 食事介助、食べる機能(摂食機能)支援の状況について
 - ・利用者の食事介助に関して問題を感じる程度
 - ・問題がある利用者への食べる機能(摂食機能)の維持向上を図るための指導・訓練の実施状況
- ウ 歯や口腔の健康管理の状況について
 - ・口腔ケアの実施の状況
 - ・口腔ケアに関する課題
 - ・歯や口腔の健康状態の向上のための現在の取組(口腔ケアや摂食機能支援以外)
 - ・職員を対象とする歯科専門職による口腔ケア指導の実施の状況
- エ 東京都医療機関・薬局案内サービス「ひまわり」について
 - ・「ひまわり」の利用状況
 - ・「居宅管理指導」や「摂食機能障害の治療」に関する検索項目の認識の程度

(2) 訪問看護ステーション

- ア 歯科的な対応が必要な割合
- イ 日常の口腔ケアや歯科治療について
 - ・施設職員に対する口腔ケア研修の実施状況
 - ・利用者の口腔の状況の把握
 - ・歯科専門職との連携
- ウ 摂食・嚥下機能への対応の状況について
 - ・利用者の摂食・嚥下機能に関して心配な場合の相談先の有無
 - ・利用者の摂食・嚥下機能の把握
 - ・専門職との連携
 - ・職員同士の話し合い及びマニュアル
- エ 認知症患者の口腔ケア、食事関連の問題について
 - ・口腔ケア、食事対応の困難度
 - ・職員に対する口腔ケア、食事対応研修の実施状況

4 解析

調査結果の解析は、日本大学歯学部衛生学講座 川戸貴行教授、日本大学歯学部 尾崎哲則客員教授が行った。

Ⅲ 結果

1 調査数

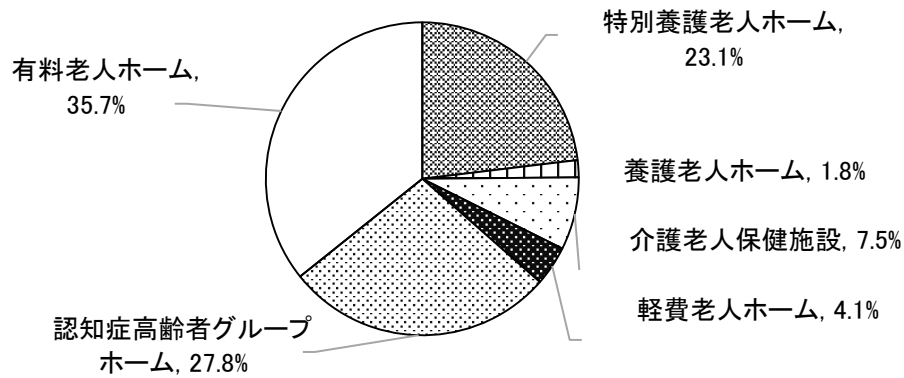
調査対象施設数は 1,581 施設、回答率は 43.0%であった。回答率は、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホームの順に高かった。回答総数に占める各施設の割合は、有料老人ホームが最も多く 35.7%、次いで認知症高齢者グループホーム 27.8%、特別養護老人ホーム 23.1%、介護老人保健施設 7.5%、軽費老人ホーム 4.1%、養護老人ホーム 1.8%の順であった。

訪問看護ステーションの調査対象数は 919 施設、回答率は 34.4%であった。

表 1-1 介護保険施設等の回答の状況

対象施設	調査対象数	回答数	(施設)
			回答率
特別養護老人ホーム	349	157	45.0%
養護老人ホーム	20	12	60.0%
介護老人保健施設	124	51	41.1%
軽費老人ホーム	54	28	51.9%
認知症高齢者グループホーム	419	189	45.1%
有料老人ホーム	615	243	39.5%
合計	1,581	680	43.0%

図 1 回答総数に占める各施設の割合



n=680

表 1-2 訪問看護ステーションの回答の状況

対象施設	調査対象数	回答数	(施設)
			回答率
訪問看護ステーション	919	316	34.4%

2 回答役職・職種

介護保険施設等を対象とした調査では、回答者が施設長である割合は55.1%、看護職である割合は10.1%であった。施設種別では、軽費老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームでは施設長である割合が60～70%台と高かった。また、看護職である割合は、養護老人ホームが50%を上回り、介護老人保健施設が40%台、特別養護老人ホームと軽費老人ホームが30%台であった。

表2 回答役職・職種(複数回答)

	(施設)						
	全 体	役 職			職 種		
		施設長	その他	無回答	看護職	その他	無回答
特別養護老人ホーム	157 100%	43 27.4%	66 42.0%	48 30.6%	28 17.8%	58 36.9%	71 45.2%
養護老人ホーム	12 100%	0 0.0%	9 75.0%	3 25.0%	4 33.3%	7 58.3%	1 8.3%
介護老人保健施設	51 100%	3 5.9%	32 62.7%	16 31.4%	14 27.5%	22 43.1%	15 29.4%
軽費老人ホーム	28 100%	17 60.7%	5 17.9%	6 21.4%	1 3.6%	11 39.3%	16 57.1%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	134 70.9%	48 25.4%	7 3.7%	4 2.1%	40 21.2%	145 76.7%
有料老人ホーム	243 100%	178 73.3%	45 18.5%	20 8.2%	18 7.4%	25 10.3%	200 82.3%
合 計	680 100%	375 55.1%	205 30.1%	100 14.7%	69 10.1%	163 24.0%	448 65.9%

2 介護保険施設等調査結果

(1) 利用者の歯科健診及び歯科治療について

ア 定期的な歯科健診の状況(入所施設)

(ア) 定期歯科健診の実施・受診の有無

定期的に歯科健診を実施している、または受診させている入所施設は79.0%であり、「いい歯東京」の目標値である50%を超えた。施設種別では、特別養護老人ホームと認知症高齢者グループホームは80%以上、介護老人保健施設と有料老人ホームも70%後半を示した一方で、養護老人ホームと軽費老人保健施設では50%を割った。

表3 定期歯科健診の実施・受診の有無(入所施設)

	(施設)			
	合 計	実施している 受診させている	実施していない 受診させていない	無回答
特別養護老人 ホーム	157 100%	129 82.2%	28 17.8%	0 0.0%
養護老人ホーム	12 100%	5 41.7%	7 58.3%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	39 76.5%	11 21.6%	1 2.0%
軽費老人ホーム	28 100%	10 35.7%	18 64.3%	0 0.0%
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	165 87.3%	20 10.6%	4 2.1%
有料老人ホーム	243 100%	189 77.8%	51 21.0%	3 1.2%
全 体	680 100%	537 79.0%	135 19.9%	8 1.2%

(イ)定期的な歯科健診の頻度

定期的な歯科健診の頻度は、年4回以上が 62.0%と最も多く、養護老人ホームを除く施設の6割以上が年に複数回、定期歯科健診を実施、または受診させていた。

表 4 実施している・受診させていると回答した施設における歯科健診の頻度(入所施設)

	(施設)						
	全 体	年4回以上	年2～3回	年1回	それ以下	その他	無回答
特別養護老人ホーム	129 100%	74 57.4%	9 7.0%	20 15.5%	13 10.1%	0 0.0%	13 10.1%
養護老人ホーム	5 100%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	3 60.0%
介護老人保健施設	39 100%	22 56.4%	4 10.3%	3 7.7%	3 7.7%	1 2.6%	6 15.4%
軽費老人ホーム	10 100%	6 60.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 20.0%
認知症高齢者グループホーム	165 100%	118 71.5%	7 4.2%	15 9.1%	6 3.6%	2 1.2%	17 10.3%
有料老人ホーム	189 100%	113 59.8%	10 5.3%	16 8.5%	15 7.9%	1 0.5%	34 18.0%
合 計	537 100%	333 62.0%	30 5.6%	56 10.4%	39 7.3%	4 0.7%	75 14.0%

(ウ) 定期的な歯科健診の対象者の範囲

歯科健診の対象者についての回答は、希望者のみが60.7%であり、すべての施設において最も多かった。対象を全員とする割合は特別養護老人ホームが、必要と思われる利用者のみとする割合は養護老人ホームが、それぞれ他の施設に比べて高かった。

表5 歯科健診の対象者の範囲(入所施設、複数回答)

	(施設)				
	全 体	全 員	希望者のみ	必要と思われる 利用者のみ	無回答
特別養護老人 ホーム	129 100%	52 40.3%	65 50.4%	28 21.7%	8 6.2%
養護老人ホーム	5 100%	1 20%	1 20%	2 40%	1 20%
介護老人保健施設	39 100%	5 12.8%	29 74.4%	16 41.0%	1 2.6%
軽費老人ホーム	10 100%	0 0%	6 60.0%	4 40.0%	0 0%
認知症高齢者 グループホーム	165 100%	49 29.7%	89 53.9%	62 37.6%	2 1.2%
有料老人ホーム	189 100%	19 10.1%	136 72.0%	79 41.8%	7 3.7%
合 計	537 123%	126 23.5%	326 60.7%	191 35.6%	19 3.5%

イ 歯科受診先の選び方(入所施設)

歯科受診先の選び方について、全員、施設側で紹介している割合は、認知症高齢者グループホームにおいて64.0%、特別養護老人ホームにおいて52.9%であり、養護老人ホームと介護老人保健施設も4割を超えていた。有料老人ホームでは一部、利用者に任せる、軽費老人ホームでは全員利用者に任せている、との回答割合が5割前後であり、他の選び方の割合を上回っていた。

表6 歯科受診先の選び方(入所施設)

	(施設)				
	全 体	全員、施設側 で紹介	一部、利用者 に任せる	全員、利用者 に任せる	無回答
特別養護老人 ホーム	157 100%	83 52.9%	64 40.8%	8 5.1%	2 1.3%
養護老人ホーム	12 100%	5 41.7%	5 41.7%	2 16.7%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	25 49.0%	20 39.2%	4 7.8%	2 3.9%
軽費老人ホーム	28 100%	2 7.1%	11 39.3%	13 46.4%	2 7.1%
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	121 64.0%	61 32.3%	6 3.2%	1 0.5%
有料老人ホーム	243 100%	84 34.6%	138 56.8%	16 6.6%	5 2.1%
合 計	680 100%	320 47.1%	299 44.0%	49 7.2%	12 1.8%

ウ 歯科治療の受診形態(入所施設)

歯科治療の受診形態について、全員、施設への歯科訪問診療が 57.2%と最も多く、次いで一部、通院歯科診療が 34.4%であり、一部、歯科訪問診療ならびに全員、通院診療は1割未満であった。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホームでは、全員、施設への歯科訪問診療の割合が他の受診形態よりも高かった。

表 7 歯科治療の受診形態(入所施設)

	(施設)					
	全 体	全員、施設への 歯科訪問診療	一部、通院 診療	一部、歯科訪問 診療	全員、通院 診療	無回答
特別養護老人 ホーム	157 100%	107 68.2%	45 28.7%	3 1.9%	2 1.3%	0 0.0%
養護老人ホーム	12 100%	2 16.7%	5 41.7%	3 25.0%	2 16.7%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	34 66.7%	14 27.5%	1 2.0%	2 3.9%	0 0.0%
軽費老人ホーム	28 100%	2 7.1%	8 28.6%	12 42.9%	4 14.3%	2 7.1%
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	139 73.5%	42 22.2%	3 1.6%	3 1.6%	2 1.1%
有料老人ホーム	243 100%	105 43.2%	120 49.4%	11 4.5%	3 1.2%	4 1.6%
合 計	680 100%	389 57.2%	234 34.4%	33 4.9%	16 2.4%	8 1.2%

エ 歯科治療の受診状況の把握(入所施設)

把握している割合は、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームにおいて9割を超え、軽費老人ホームも半数を上回っていた。

表 8 歯科治療の受診状況の把握(入所施設)

	(施設)			
	全 体	把握している	把握していない	無回答
特別養護老人ホーム	157 100%	156 99.4%	1 0.6%	0 0.0%
養護老人ホーム	12 100%	11 91.7%	1 8.3%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	50 98.0%	0 0.0%	1 2.0%
軽費老人ホーム	28 100%	16 57.1%	11 39.3%	1 3.6%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	186 98.4%	0 0.0%	3 1.6%
有料老人ホーム	243 100%	234 96.3%	8 3.3%	1 0.4%
合 計	680 100%	653 96.0%	21 3.1%	6 0.9%

オ 定期的な歯科健診の受診状況の把握(通所施設)

通所施設における利用者の定期的な歯科健診の受診状況については、全員、把握しているとの回答割合が 47.0%と最も多く、次いで、一部の利用者のみ把握が 30.1%、把握していないが 22.9%であった。全員把握している割合は、認知症高齢者グループホームで8割と高く、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、有料老人ホームも半数以上を占めていた。軽費老人ホームでは一部の利用者のみ把握、介護老人保健施設では把握していない、との回答割合が高かった。

表 9 定期的な歯科健診の受診状況の把握(通所施設)

	(施設)				
	全 体	全員把握 している	一部の利用者 のみ把握	把握して いない	その他
特別養護老人 ホーム	39 100%	20 51.3%	10 25.6%	9 23.1%	0 0.0%
養護老人ホーム	2 100%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	42 100%	0 0.0%	19 45.2%	23 54.8%	0 0.0%
軽費老人ホーム	4 100%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%
認知症高齢者 グループホーム	33 100%	27 81.8%	4 12.1%	2 6.1%	0 0.0%
有料老人ホーム	46 100%	29 63.0%	13 28.3%	4 8.7%	0 0.0%
合 計	166 100%	78 47.0%	50 30.1%	38 22.9%	0 0.0%

カ 歯科治療の受診状況の把握(通所施設)

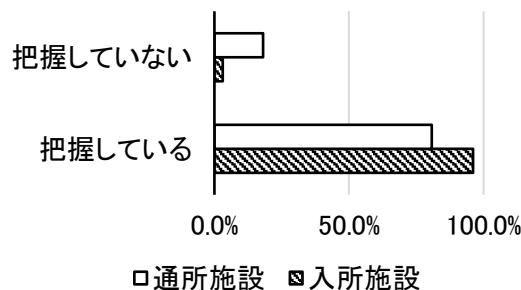
歯科治療の受診状況の把握についての回答は、定期的な歯科健診の受診状況の把握と近似した傾向を示し、全員、把握しているが47.6%と最も多く、次いで一部の利用者のみ把握が33.1%、把握していないは18.1%であった。全員把握しているとの回答割合は、認知症高齢者グループホームが最も高く78.8%、次いで、有料老人ホームが67.4%、養護老人ホームが50.0%であった。軽費老人ホームでは、一部の利用者のみ把握が75.0%と他の回答割合よりも高かった。

通所施設における歯科治療の受診状況の把握について、全員、把握していると一部の利用者のみ把握しているとの回答を合算するとその割合は80.7%となるが、入所施設において把握しているとの回答割合96.0%には及ばなかった。

表 10 歯科治療の受診状況の把握(通所施設)

	(施設)					
	全 体	全員把握 している	一部の利用者 のみ把握	把握して いない	その他	無回答
特別養護老人 ホーム	39 100%	19 48.7%	12 30.8%	7 17.9%	0 0.0%	1 2.6%
養護老人ホーム	2 100%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	42 100%	1 2.4%	24 57.1%	17 40.5%	0 0.0%	0 0.0%
軽費老人ホーム	4 100%	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
認知症高齢者 グループホーム	33 100%	26 78.8%	5 15.2%	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%
有料老人ホーム	46 100%	31 67.4%	10 21.7%	4 8.7%	0 0.0%	1 2.2%
合 計	166 100%	79 47.6%	55 33.1%	30 18.1%	0 0.0%	2 1.2%

図 2 歯科治療の受診状況の把握(入所施設と通所施設の比較)



* 通所施設における「把握している」は、全員把握と一部の利用者のみ把握を合算した割合

キ かかりつけ歯科医の有無の把握(通所施設)

かかりつけ歯科医の有無について、全員把握している施設が 42.8%と最も多く、次いで一部の利用者のみ把握が 32.5%であり、把握していない施設は 22.3%であった。全員把握している割合は、認知症高齢者グループホームで最も多く7割を超えていた。一方、介護老人保健施設は他の施設種に比べて、把握していないとの回答割合が高かった。

表 11 かかりつけ歯科医の有無の把握(通所施設)

	(施設)					
	全 体	全員把握 している	一部の利用者 のみ把握	把握して いない	その他	無回答
特別養護老人 ホーム	39 100%	16 41.0%	12 30.8%	10 25.6%	0 0.0%	1 2.6%
養護老人ホーム	2 100%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	42 100%	2 4.8%	20 47.6%	19 45.2%	0 0.0%	1 2.4%
軽費老人ホーム	4 100%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
認知症高齢者 グループホーム	33 100%	26 78.8%	3 9.1%	3 9.1%	1 3.0%	0 0.0%
有料老人ホーム	46 100%	25 54.3%	16 34.8%	4 8.7%	0 0.0%	1 2.2%
合 計	166 100%	71 42.8%	54 32.5%	37 22.3%	1 0.6%	3 1.8%

(2) 食事介助、食べる機能(摂食機能)支援の状況について

ア 食事介助について

(ア)利用者の食事介助に関して問題を感じる程度

利用者の食事介助に関して問題を感じる程度は、ややある、あまりない、とてもある、必要な者がいない、の順に回答割合が高かった。ややある、とてもあるとの回答を合わせた割合は、特別養護老人ホームが8割、介護老人保健施設が7割、有料老人ホームが6割、認知症高齢者老人ホームが5割であった。養護老人ホームと軽費老人ホームでは、食事介助が必要ないとの回答が6割に達したが、他の施設では1割未満であった。

表 12 利用者の食事介助に関して問題を感じることはどの程度あるか

	(施設)						
	全 体	とてもある	ややある	あまりない	食事介助が必要な者がいない	その他	無回答
特別養護老人ホーム	157 100%	46 29.3%	84 53.5%	25 15.9%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.6%
養護老人ホーム	12 100%	1 8.3%	3 25.0%	0 0.0%	8 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	9 17.6%	27 52.9%	15 29.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
軽費老人ホーム	28 100%	1 3.6%	5 17.9%	4 14.3%	18 64.3%	0 0.0%	0 0.0%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	26 13.8%	87 46.0%	54 28.6%	16 8.5%	1 0.5%	5 2.6%
有料老人ホーム	243 100%	32 13.2%	127 52.3%	67 27.6%	6 2.5%	3 1.2%	8 3.3%
合 計	680 100%	115 16.9%	333 49.0%	165 24.3%	48 7.1%	5 0.7%	14 2.1%

イ 摂食機能支援について

(ア)問題がある利用者への食べる機能(摂食機能)の維持向上を図るための指導・訓練の実施

食べる機能(摂食機能)の維持向上を図るための指導・訓練について、これを実施している施設は62.2%、必要性を感じているが実施していない施設は25.4%であった。施設種別の実施割合は、介護老人保健施設で8割、特別養護老人ホームで7割、有料老人ホームで6割、認知症高齢者グループホームで5割、養護老人ホームで3割、軽費老人ホームで2割弱であった。必要性を感じず実施していないとの回答割合は、いずれの種類の施設種も1割未満であった。軽費老人ホームでは、問題がある利用者がいないとの回答が50%程、認められた。

表 13 摂食機能の維持・向上を図るための訓練の実施(複数回答)

	(施設)							
	全 体	実施している	必要性を感じるが 実施していない	必要性を感じず 実施していない	問題のある 利用者いない	その他	無回答	
特別養護老人 ホーム	157 100%	112 71.3%	41 26.1%	0 0.0%	1 0.6%	5 3.2%	0 0.0%	
養護老人ホーム	12 100%	4 33.3%	5 41.7%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	
介護老人保健施設	51 100%	43 84.3%	5 9.8%	1 2.0%	0 0.0%	2 3.9%	0 0.0%	
軽費老人ホーム	28 100%	5 17.9%	6 21.4%	2 7.1%	14 50.0%	0 0.0%	1 3.6%	
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	105 55.6%	55 29.1%	8 4.2%	12 6.3%	11 5.8%	3 1.6%	
有料老人ホーム	243 100%	154 63.4%	61 25.1%	1 0.4%	13 5.3%	17 7.0%	7 2.9%	
合 計	680 100%	423 62.2%	173 25.4%	13 1.9%	41 6.0%	36 5.3%	11 1.6%	

(イ)実施している指導・訓練の内容

実施している指導、訓練の内容では、食環境(食事や食具等)の指導と、食内容(食形態・物性)の指導を行っている施設が5割以上であった。間接機能訓練(嚥下体操や器具を使ったトレーニング)は4割の施設で実施していたが、直接機能訓練(実際の食事を使った訓練)は1割程度であった。食環境の指導と食内容の指導は、介護老人保健施設で最も多く8割を超えていた。間接機能訓練と直接機能訓練についても介護保健施設での実施割合が高く、それぞれ6割と3割を示した。

表 14 実施している指導・訓練の内容(複数回答)

	(施設)						
	全 体	食環境 の指導	食内容 の指導	間接機能 訓練	直接機能 訓練	その他	無回答
特別養護老人 ホーム	157 100%	108 68.8%	109 69.4%	65 41.4%	14 8.9%	9 5.7%	31 19.7%
養護老人ホーム	12 100%	4 33.3%	3 25.0%	2 16.7%	2 16.7%	2 16.7%	7 58.3%
介護老人保健施設	51 100%	41 80.4%	41 80.4%	34 66.7%	19 37.3%	6 11.8%	2 3.9%
軽費老人ホーム	28 100%	5 17.9%	6 21.4%	3 10.7%	1 3.6%	4 14.3%	17 60.7%
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	86 45.5%	89 47.1%	70 37.0%	6 3.2%	16 8.5%	55 29.1%
有料老人ホーム	243 100%	145 59.7%	143 58.8%	118 48.6%	31 12.8%	19 7.8%	54 22.2%
合 計	680 100%	389 57.2%	391 57.5%	292 42.9%	73 10.7%	56 8.2%	166 24.4%

(ウ)実施している職員の職種

摂食機能の維持・向上を図るための訓練の実施している職員の職種としては、看護師が34.7%と最も多かった。歯科医師と歯科衛生士がそれぞれ30.1%と26.0%であり、歯科専門職が実施している割合は5割を超えた。その他の記載としては、言語聴覚士の記載が56件と多く、次いで管理栄養士が29件、認められた。

表 15 実施している職員の職種(複数回答)

	(施設)								
	全 体	医師	歯科医師	看護師	歯科衛生士	理学療法士	作業療法士	その他	無回答
特別養護老人ホーム	157 100%	8 5.1%	62 39.5%	66 42.0%	55 35.0%	24 15.3%	14 8.9%	68 43.3%	28 17.8%
養護老人ホーム	12 100%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	7 58.3%
介護老人保健施設	51 100%	5 9.8%	8 15.7%	22 43.1%	10 19.6%	12 23.5%	12 23.5%	40 78.4%	2 3.9%
軽費老人ホーム	28 100%	0 0.0%	1 3.6%	2 7.1%	0 0.0%	2 7.1%	0 0.0%	8 28.6%	18 64.3%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	12 6.3%	60 31.7%	23 12.2%	58 30.7%	3 1.6%	2 1.1%	65 34.4%	53 28.0%
有料老人ホーム	243 100%	8 3.3%	74 30.5%	119 49.0%	53 21.8%	31 12.8%	18 7.4%	97 39.9%	54 22.2%
合 計	680 100%	33 4.9%	205 30.1%	236 34.7%	177 26.0%	73 10.7%	47 6.9%	281 41.3%	162 23.8%

(エ)必要性を感じているが実施していない理由

必要性を感じているが実施していない理由として、人材(専門職)がいない、知識・技術不足を挙げている施設がともに 17.9%認められた。時間が確保できないとの回答割合は1割未満、スペースや施設がないと回答した施設は認められなかった。

表 16 必要性を感じているが実施していない理由(複数回答)

	(施設)						
	全 体	人材 (専門職) がいない	知識・技術 不足	時間が確保 できない	実施する スペース・ 設備がない	その他	無回答
特別養護老人 ホーム	41 100%	9 22.0%	8 19.5%	3 7.3%	0 0.0%	1 2.4%	30 73.2%
養護老人ホーム	5 100%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 80.0%
介護老人保健施設	5 100%	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
軽費老人ホーム	6 100%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	5 83.3%
認知症高齢者 グループホーム	55 100%	10 18.2%	10 18.2%	3 5.5%	0 0.0%	0 0.0%	39 70.9%
有料老人ホーム	61 100%	10 16.4%	10 16.4%	5 8.2%	0 0.0%	4 6.6%	40 65.6%
合 計	173 100%	31 17.9%	31 17.9%	12 6.9%	0 0.0%	6 3.5%	119 68.8%

(3) 歯や口腔の健康管理の状況について

ア 口腔ケア(口腔清掃等)について

(ア) 口腔ケアの実施の状況

口腔ケア(口腔清掃等)を実施しているとの回答割合は、94.7%であった。すべての介護老人保健施設が実施しているとの回答した一方で、養護老人ホームは 66.7%、軽費老人ホームは 28.6%と低く、その他の施設種では実施している割合は 90%を超えていた。

表 17 口腔ケア(口腔清掃等)の実施

	(施設)			
	全 体	実施している	実施していない	無回答
特別養護老人ホーム	157 100%	154 98.1%	2 1.3%	1 0.6%
養護老人ホーム	12 100%	8 66.7%	3 25.0%	1 8.3%
介護老人保健施設	51 100%	51 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
軽費老人ホーム	28 100%	8 28.6%	19 67.9%	1 3.6%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	185 97.9%	3 1.6%	1 0.5%
有料老人ホーム	243 100%	238 97.9%	4 1.6%	1 0.4%
合 計	680 100.0%	644 94.7%	31 4.6%	5 0.7%

(イ)口腔ケアに関する課題

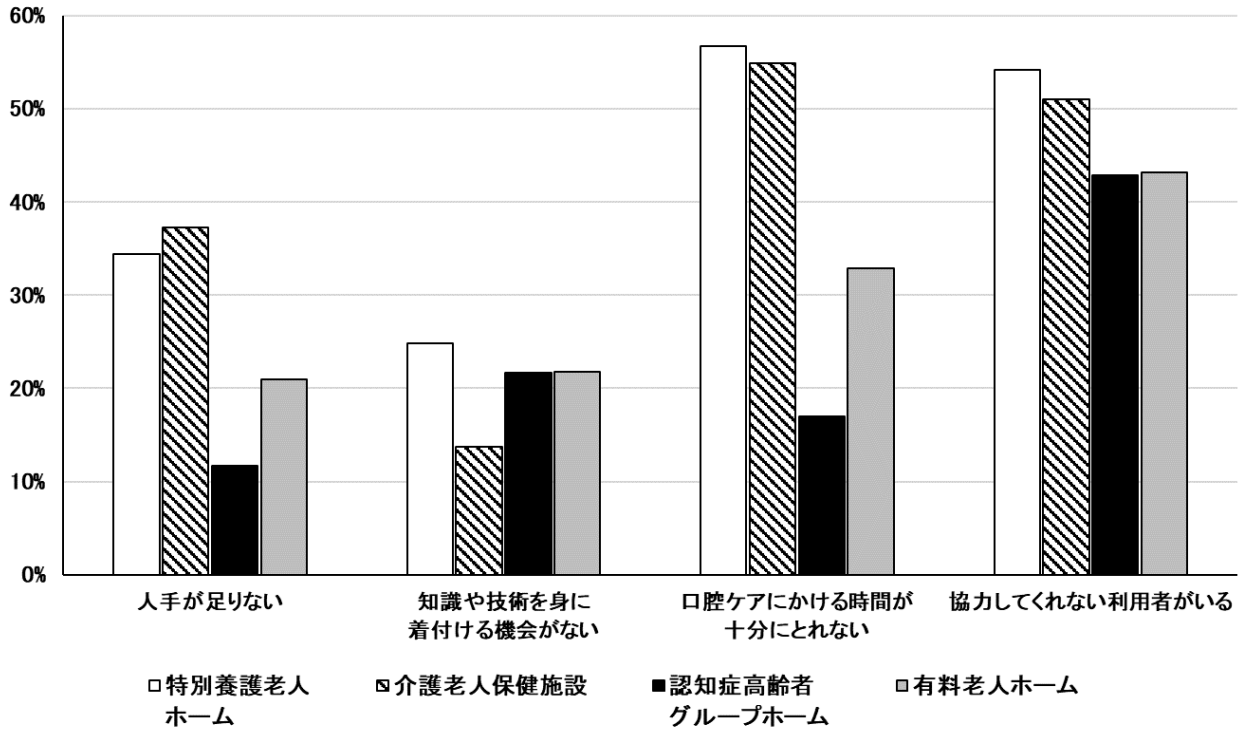
利用者の口腔ケア(口腔清掃等)に関する課題として、44.6%の施設が開口しない・入れ歯を外さないなど協力してくれない利用者があることを挙げており、次いで口腔ケアにかかる時間が十分にとれないが35.0%であった。人手が足りない、必要な知識や技術を身に着付ける機会がないことを課題とする施設は20%程度で、その他の理由は1割未満であった。

主な課題(挙げられた合計数 100 以上)について、全体の回答数が 50 以上である4施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム)別に回答状況を見たところ、特別養護老人ホームと介護老人保健施設では、認知症老人ホームと有料老人ホームに比べて、人手が足りない、口腔ケアにかかる時間が十分に取れない、との回答割合が多かった。

表 18 口腔ケアに関する課題(複数回答)

	全 体	実 施 で き る 職 種 が い な い	人 手 が 足 り な い	し ど の よ う に か わ か ら な い	着 付 け な い 機 会 が な い	必 要 な 知 識 や 技 術 を 身 に	十 分 に と れ な い	口 腔 ケ ア に か か る 時 間 が	利 用 者 が い る	な い な ど の 協 力 し て く れ な い	開 口 し な い	つ か な い	受 診 が 必 要 か の 判 断 が	方 法 が わ か ら な い	地 域 の 歯 科 専 門 職 と の 連 携	家 族 の 理 解 が 得 ら れ な い	そ の 他	特 に な し	(施設)
																			無 回 答
特別養護老人 ホーム	157 100%	3 1.9%	54 34.4%	14 8.9%	39 24.8%	89 56.7%	85 54.1%	2 1.3%	1 0.6%	3 1.9%	0 0.0%	11 7.0%	10 6.4%						
養護老人ホーム	12 100%	2 16.7%	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	4 33.3%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 41.7%						
介護老人保健施設	51 100%	1 2.0%	19 37.3%	2 3.9%	7 13.7%	28 54.9%	26 51.0%	4 7.8%	1 2.0%	2 3.9%	3 5.9%	4 7.8%	2 3.9%						
軽費老人ホーム	28 100%	4 14.3%	4 14.3%	1 3.6%	1 3.6%	5 17.9%	4 14.3%	1 3.6%	0 0.0%	2 7.1%	5 17.9%	8 28.6%	4 14.3%						
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	8 4.2%	22 11.6%	15 7.9%	41 21.7%	32 16.9%	81 42.9%	15 7.9%	0 0.0%	1 0.5%	10 5.3%	26 13.8%	37 19.6%						
有料老人ホーム	243 100%	5 2.1%	51 21.0%	15 6.2%	53 21.8%	80 32.9%	105 43.2%	11 4.5%	2 0.8%	4 1.6%	2 0.8%	25 10.3%	37 15.2%						
合 計	680 100%	23 3.4%	155 22.8%	47 6.9%	142 20.9%	238 35.0%	303 44.6%	34 5.0%	4 0.6%	12 1.8%	20 2.9%	74 10.9%	95 14.0%						

図3 施設別の口腔ケアに関する主な課題(複数回答)



n = 640

(ウ)実施頻度

口腔ケアの実施頻度は、食後が91.5%と最も高く、次いで起床時が15.8%、就寝前が14.4%であった。食後との回答割合を施設種別に見ると、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホームが9割を超えており、認知症グループホームが8割、養護老人ホームが6割、軽費老人ホームが5割であった。

表 19 口腔ケアの実施頻度(複数回答)

	(施設)					
	全 体	食 後	起床時	就寝前	その他	無回答
特別養護老人ホーム	154 100%	147 95.5%	15 9.7%	20 13.0%	5 3.2%	3 1.9%
養護老人ホーム	8 100%	5 62.5%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%
介護老人保健施設	51 100%	50 98.0%	6 11.8%	2 3.9%	1 2.0%	1 2.0%
軽費老人ホーム	8 100%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%
認知症高齢者グループホーム	185 100%	163 88.1%	37 20.0%	28 15.1%	4 2.2%	12 6.5%
有料老人ホーム	238 100%	220 92.4%	44 18.5%	42 17.6%	8 3.4%	9 3.8%
合 計	644 100%	589 91.5%	102 15.8%	93 14.4%	20 3.1%	30 4.7%

ウ 歯や口腔の健康状態の向上のための現在の取組(口腔ケアや摂食機能支援以外)

利用者の歯や口の健康状態の向上のための現在の取組(口腔ケアや摂食機能支援の取り組み以外)は、定期的な歯科健診の推奨が 69.3%と最も多く、次いで受診先や相談先の確保が 30.7%であった。フッ化物洗口やフッ素塗布、歯や口に良いとされている食事の提供、間食や甘味飲料等の摂取管理、専門職(歯科衛生士等)の配置は、いずれも1割未満であり、歯科専門職の関与を要する取組を実施する施設は少ないものと思われた。

表 20 利用者の歯や口の健康状態の向上のための現在の取り組み(複数回答)

	(施設)								
	全 体	定期的な 歯科健診の 推奨	フッ化物 洗口や フッ素塗布	歯や口に良 いとされて いる食事の 提供	間食や 甘味飲料等 の摂取の 管理	受診先や相 談先の確保	専門職 (歯科衛生 士等) の配置	その他	無回答
特別養護老人 ホーム	157 100%	112 71.3%	6 3.8%	7 4.5%	5 3.2%	45 28.7%	26 16.6%	21 13.4%	20 12.7%
養護老人ホーム	12 100%	5 41.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	3 25.0%
介護老人保健施設	51 100%	27 52.9%	0 0.0%	6 11.8%	6 11.8%	16 31.4%	6 11.8%	10 19.6%	4 7.8%
軽費老人ホーム	28 100%	10 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 21.4%	1 3.6%	9 32.1%	8 28.6%
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	141 74.6%	7 3.7%	4 2.1%	14 7.4%	51 27.0%	8 4.2%	13 6.9%	15 7.9%
有料老人ホーム	243 100%	176 72.4%	7 2.9%	18 7.4%	15 6.2%	88 36.2%	16 6.6%	15 6.2%	18 7.4%
合 計	680 100%	471 69.3%	20 2.9%	35 5.1%	40 5.9%	209 30.7%	59 8.7%	69 10.1%	68 10.0%

(4) 職員の研修実施状況について

ア 職員を対象とする歯科専門職による口腔ケア指導の実施の状況

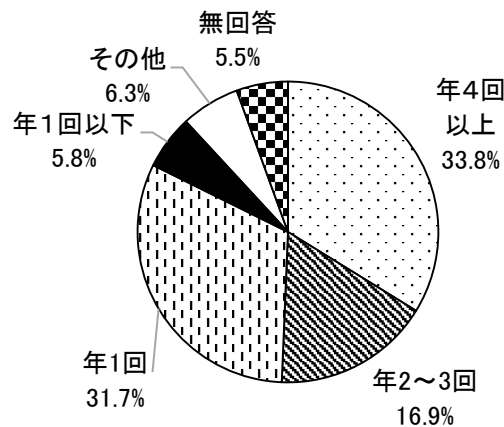
歯科専門職による口腔ケア指導(研修の受講を含む)を職員全員に実施している施設は26.3%であり、一部の職員に実施している施設の29.4%と合わせると、実施割合は半数を超えた。この割合を施設種別に見ると、特別養護老人ホームが最も高く6割、軽費老人ホームは最も少なく2割、その他の施設種は5割前後であった。実施頻度は、年1回以上、実施する施設が8割以上であった。

また、実施していない理由としては、研修時間の確保や調整の困難(58件)が最も多かった。

表 21 職員を対象とする歯科専門職による口腔ケア指導の実施

	(施設)				
	全 体	全員に実施 している	一部の職員に 実施している	実施して いない	無回答
特別養護老人 ホーム	157 100%	50 31.8%	56 35.7%	50 31.8%	1 0.6%
養護老人ホーム	12 100%	2 16.7%	0 0.0%	9 75.0%	1 8.3%
介護老人保健施設	51 100%	13 25.5%	15 29.4%	23 45.1%	0 0.0%
軽費老人ホーム	28 100%	1 3.6%	6 21.4%	21 75.0%	0 0.0%
認知症高齢者 グループホーム	189 100%	54 28.6%	39 20.6%	93 49.2%	3 1.6%
有料老人ホーム	243 100%	59 24.3%	84 34.6%	98 40.3%	2 0.8%
合 計	680 100%	179 26.3%	200 29.4%	294 43.2%	7 1.0%

図 4 実施頻度



(5) 東京都医療機関・薬局案内サービス「ひまわり」について

ア 利用の有無

利用しているとの回答は、養護老人ホームと軽費老人ホームで2割、特別養護老人ホームでは1割を超えたが、その他の施設種は1割未満であった。

表 22 東京都医療機関・薬局案内サービス「ひまわり」の利用の有無

	(施設)			
	全 体	利用している	利用していない	無回答
特別養護老人ホーム	157 100%	24 15.3%	133 84.7%	0 0.0%
養護老人ホーム	12 100%	3 25.0%	9 75.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	5 9.8%	46 90.2%	0 0.0%
軽費老人ホーム	28 100%	6 21.4%	22 78.6%	0 0.0%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	4 2.1%	184 97.4%	1 0.5%
有料老人ホーム	243 100%	13 5.3%	225 92.6%	5 2.1%
合 計	680 100%	55 8.1%	619 91.0%	6 0.9%

イ 「居宅管理指導」や「摂食機能障害の治療」に関する検索項目の認識の程度

知っているとの回答割合は13.1%であった。施設種別では、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、経費老人ホームで2割前後、その他の施設種では1割前後であった。

表 23 「居宅管理指導」や「摂食機能障害の治療」に関する検索項目があることを知っているか

	(施設)			
	全 体	知っている	知らない	未回答
特別養護老人ホーム	157 100%	32 20.4%	123 78.3%	2 1.3%
養護老人ホーム	12 100%	2 16.7%	10 83.3%	0 0.0%
介護老人保健施設	51 100%	10 19.6%	41 80.4%	0 0.0%
軽費老人ホーム	28 100%	6 21.4%	22 78.6%	0 0.0%
認知症高齢者グループホーム	189 100%	15 7.9%	172 91.0%	2 1.1%
有料老人ホーム	243 100%	24 9.9%	214 88.1%	5 2.1%
合 計	680 100%	89 13.1%	582 85.6%	9 1.3%

3 訪問看護ステーション

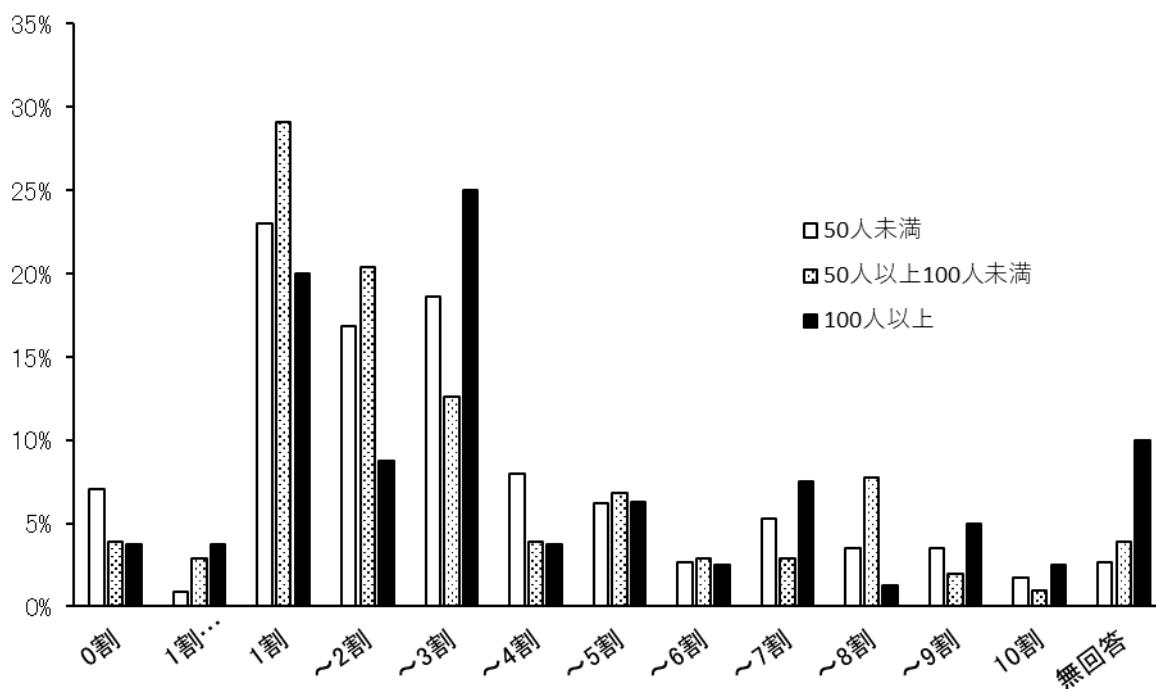
(1) 在宅療養患者に対し、歯科的な対応が必要なケースについて

在宅療養患者で歯科的対応が必要なケースは、1割との回答が23.1%で最も多った。前回(平成26年度)と比して、1割未満から5割以下までが63.6%から69.6%へと微増し、5割を超えるものが19.0%から16.5%へと微減した。また、施設を在宅療養患者数で50人未満、50人以上100人未満、100人以上に区分して歯科的対応が必要なケースの割合を見たところ、100人未満までの施設では1割との回答が、100人以上の施設では3割との回答が、それぞれ最も多かった。

表 24 在宅療養患者で、歯科的な対応が必要なケースの割合

	全体	0割	1割未満	1割	～2割	～3割	～4割	～5割	～6割	～7割	～8割	～9割	10割	無回答
総数	316	16	7	73	49	55	16	20	8	16	13	10	5	28
割合	100%	5.1%	2.2%	23.1%	15.5%	17.4%	5.1%	6.3%	2.5%	5.1%	4.1%	3.2%	1.6%	8.9%

図 5 在宅療養患者数の区別にみた歯科的な対応が必要なケースの割合



(2) 利用者の日常の口腔ケアや歯科治療について

ア 職員の口腔ケアの研修実施・受講

口腔ケアの研修を行っている、または受講させていると回答した施設は、前回(平成26年度)の42.6%から23.1%へと減少し、今後、行いたいとの回答が37.1%から63.0%に大幅に増加しており、研修の実施へのコロナ禍の影響が伺えた。また、行う予定はないとの回答は12.0%であった。

表 25 職員の口腔ケアの研修実施／受講

	(施設)				
	全 体	行っている	今後行いたい	行う予定ない	無回答
総 数	316	73	199	38	6
割 合	100%	23.1%	63.0%	12.0%	1.9%

イ 職員の受講割合

研修を受講する職員の割合は10割が28.8%と最も多く、5割以上までの回答が80%以上であった。

表 26 職員の受講割合

	(施設)												
	全 体	1割未満	1割	～2割	～3割	～4割	～5割	～6割	～7割	～8割	～9割	10割	無回答
総 数	73	1	5	5	2	0	14	4	4	9	5	21	3
割 合	100%	1.4%	6.8%	6.8%	2.7%	0.0%	19.2%	5.5%	5.5%	12.3%	6.8%	28.8%	4.1%

ウ 利用者の歯や口腔の状況の把握

(ア) 把握の有無

利用者の歯や口腔状況を把握する対象については、原則全員を把握する施設が36.1%であり、必要と思われた利用者のみを把握する施設の34.2%を僅かに上回った。また、職員に任せている施設は約2割であり、ほとんど把握していない施設は1割未満であった。

表 27 対象の把握

	(施設)					
	全 体	原則全員	必要と思われた利用者のみ	ほとんど把握していない	職員に任せている	無回答
総 数	316	114	108	10	63	21
割 合	100%	36.1%	34.2%	3.2%	19.9%	6.6%

(イ) 把握の頻度

把握の頻度については、職員に任せているとの回答が43.7%と最も多く、次いで不定期が38.9%、初回訪問時が36.4%、毎회가14.2%、定期的が9.8%であった。

表 28 把握の頻度(複数回答)

	(施設)											
	全 体	毎 回	初回 訪問時	定期的	定期的の内訳(〇か月に1回)				不定期	職員に任 せている	その他	無回答
					1か月	1~2か月	3か月	3~6か月				
総 数	316	45	115	31	14	1	2	2	123	138	14	22
割 合	100%	14.2%	36.4%	9.8%	4.4%	0.3%	0.6%	0.6%	38.9%	43.7%	4.4%	7.0%

(ウ) 把握の方法

把握の方法は、本人・家族からの情報が83.9%と最も多く、次いで口腔内観察72.2%、かかりつけ歯科医からの情報提供17.4%の順であり、マニュアルや評価シートは0.3%であった。今回の調査の本質問の選択項目は前回(平成26年度)と同様であるが、選択できる数を2つとしたため一概に比較できないが、口腔内観察と利用者のかかりつけ歯科医からの情報提供を挙げた施設の割合は、前回から低下しており、歯や口の状況について本人・家族から情報を得る傾向が強くなっていると考えられた。

表 29 把握の方法(複数回答)

	(施設)						
	全 体	本人・家族から の情報提供	口腔内観察	マニュアルや 評価シート	利用者のかかり つけ歯科医から の情報提供	その他	無回答
総 計	316	265	228	1	55	5	19
割 合	100%	83.9%	72.2%	0.3%	17.4%	1.6%	6.0%

ウ 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関する歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無

(ア) 連携先の有無

歯科専門職との連携があると回答した施設の割合は、前回(平成 26 年度)の 72.5%から 55.7%へと減少していた。これは、利用者の歯や口腔の状況の把握の方法についての質問(表 29)の回答状況の変化と齟齬の無いものであり、コロナ禍前に比べて歯科専門職との連携が減少している様子が伺えた。

表 30 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関する専門職と連携の有無

	全 体	(施設)		
		ある	なし	無回答
総 数	316	176	134	6
割 合	100%	55.7%	42.4%	1.9%

(イ) 連携先

連携先としては、利用者のかかりつけ歯科医が 88.1%であり、歯科医師会の紹介先の 3.4%を大きく上回った。前回(平成 26 年度)と比べても、かかりつけ歯科医の割合が増加し、歯科医師会の紹介先は減少した。

表 31 連携先(複数回答)

	全 体	(施設)			
		利用者のかかり つけ歯科医	歯科医師会の 紹介先	その他	無回答
総 数	176	155	6	21	148
割 合	100%	88.1%	3.4%	11.9%	84.1%

(ウ) 連携の頻度

定期的に連携していると回答した施設は、前回(平成 26 年度)の 13.5%から 30.7%へと増加した。定期的の内訳は、1か月に1回が 20.5%と最も多く、前回(平成 26 年度)の 10.5%を上回った。なお、その他(84 件)では、「適宜」「必要に応じて」「トラブル時」「症状があった時」などの記載が 41 件、認められた。

表 32 連携の頻度

		(施設)									
	全 体	定期的	定期的の内訳(〇か月に1回)						その他	無回答	
			1か月	1~2か月	1~6か月	2か月	2~3か月	3か月			6か月
総 数	176	54	36	1	1	4	3	2	1	84	38
割 合	100%	30.7%	20.5%	0.6%	0.6%	2.3%	1.7%	1.1%	0.6%	47.7%	21.6%

(エ) 連携のきっかけ

連携のきっかけは、訪問看護ステーションからが 52.8%、連携先からが 31.8%であった。

表 33 連携のきっかけ(複数回答)

		(施設)				
	全 体	ステーションから	連携先から	その他	無回答	
総 数	176	93	56	30	28	
割 合	100%	52.8%	31.8%	17.0%	15.9%	

(3) 在宅療養患者の摂食・嚥下機能への対応の状況

ア 利用者の摂食・嚥下機能に関して心配な場合の相談先の有無

利用者の摂食・嚥下機能について心配な場合の相談先があると回答した施設は70.6%であり、前回(平成26年度)の66.7%から微増した。

表 34 利用者の摂食・嚥下機能に関する相談先

	(施設)			
	全 体	あ る	な い	無回答
総 数	316	223	69	24
割 合	100%	70.6%	21.8%	7.6%

イ 利用者の摂食・嚥下機能に関して心配な場合の相談先

相談先の内訳は、利用者のかかりつけ医が64.4%と最も多かった。一方で、利用者のかかりつけ歯科医は27.5%、ステーションが連携する歯科医療機関が14.6%と、相談先に歯科専門職・機関を挙げる施設は半数を下回った。また、その他では、言語聴覚士の記載が複数、認められた。

表 35 利用者の摂食・嚥下機能に関する相談先の内訳(複数回答)

	(施設)					
	全 体	利用者の かかりつけ医	利用者の かかりつけ歯科医	ステーションが連携 する歯科医療機関	その他	未回答
総 数	233	150	64	34	47	0
割 合	100.0%	64.4%	27.5%	14.6%	20.2%	0.0%

ウ 利用者の摂食・嚥下機能の状況の把握

(ア) 把握の有無

摂食・嚥下機能について、原則全員を把握するとの回答が前回(平成26年度)の38.3%から45.3%へと増加し、必要と思われた利用者に対しては60.6%から32.6%へと減少した。また、職員に任せていると回答した施設は17.1%であった。

表 36 対象の把握(複数回答)

	(施設)					
	全 体	原則全員	必要と思われた 利用者のみ	ほとんど把握して いない	職員に任せてい る	無回答
総 数	316	143	103	5	54	15
割 合	100%	45.3%	32.6%	1.6%	17.1%	4.7%

(イ) 把握の頻度

把握の頻度は、不定期と職員に任せているとの回答がそれぞれ 40.5%と 40.2%と高く、次いで初回訪問時が 35.8%、毎日が 19.6%であった。

表 37 対象の頻度(複数回答)

(施設)														
	全 体	毎 日	定期的	定期的の内訳(○か月に1回)						初回 訪問時	不定期	職員に 任せて いる	その他	無回答
				1か月	1~2 か月	1~3 か月	3か月	4か月	6か月					
総 数	316	62	24	12	1	2	1	1	3	113	128	127	7	18
割 合	100%	19.6%	7.6%	3.8%	0.3%	0.6%	0.3%	0.3%	0.9%	35.8%	40.5%	40.2%	2.2%	5.7%

(ウ) 把握の方法

把握の方法は、本人・家族からの情報提供が 87.7%と最も多く、次いで食事時の観察が 57.9%であり、これらの方法で把握する施設が前回(平成 26 年度)と同様に多かった。一方、マニュアルや評価シート、スクリーニングテストで把握している施設は1割未満であり、前々回(平成 21 年度)からの減少が続いた。また、かかりつけ歯科医からの情報提供は 8.9%と、かかりつけ医からの情報提供の 20.3%を大きく下回った。

表 38 把握の方法(複数回答)

(施設)									
	全 体	本人・家族 からの 情報提供	食事観察	マニュアルや 評価シート	利用者の かかりつけ医 から	利用者の かかりつけ 歯科医から	スクリーニン グテスト	その他	無回答
総 数	316	277	183	8	64	28	24	7	19
割 合	100%	87.7%	57.9%	2.5%	20.3%	8.9%	7.6%	2.2%	6.0%

ウ 利用者の摂食・嚥下機能に関して、医師・歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無

(ア) 連携の有無

専門職との連携があるとの回答は57.6%と、前回(平成26年度)の75.4%から大幅に減少した。日常の口腔ケアや歯科治療における歯科専門職との連携の状況(表30)と同様に、摂食・嚥下機能に関しても、歯科専門職との連携がコロナ禍前に比べて減少している様子が伺えた。

表 39 専門職と連携の有無

	全 体	(施設)	
		あり	なし
総 数	316	182	134
割 合	100%	57.6%	42.4%

(イ) 連携先

連携先としては、利用者のかかりつけ歯科医が48.9%であり、前回(平成26年度)の55.9%から減少した。また、ステーションが連携する歯科医療機関を連絡先に挙げた施設は18.1%であり、利用者のかかりつけ歯科医と合わせても、利用者のかかりつけ医の79.7%を下回った。

表 40 連携の連絡先(複数回答)

	全 体	(施設)				
		利用者の かかりつけ医	利用者の かかりつけ歯科医	ステーションが連携 する歯科医療機関	その他	無回答
総 数	182	145	89	33	15	111
割 合	100%	79.7%	48.9%	18.1%	8.2%	61.0%

(ウ) 連携の頻度

連携の頻度は、必要に応じてとの回答が最も多く、86.8%であった。定期的は13.2%、その内訳は1か月に1回が9.9%であり、それぞれ前回(平成26年度)の10.7%と7.9%から微増した。定期的な連携を図るに至ってはいないものの、連携の頻度は少しずつ多くなっていると考えられる。

表 41 連携の頻度(複数回答)

	(施設)								
	全 体	定期的	定期的の内訳(〇か月に1回)				必要に 応じて	その他	未回答
			1か月	1~2か月	1~6か月	6か月			
総 数	182	24	18	1	1	1	158	3	136
割 合	100%	13.2%	9.9%	0.5%	0.5%	0.5%	86.8%	1.6%	74.7%

エ 利用者の口腔ケアや摂食・嚥下機能に関してマニュアルの有無

口腔ケアや摂食・嚥下機能に関してのマニュアルがあるとの回答割合は、18.4%であった。この割合は、口腔ケアと摂食機能のマニュアルを分けて尋ねた前回(平成 26 年度)と比較して、それぞれの割合を下回っており、前々回(平成 21 年度)からの減少が続いた。

表 42 口腔ケアや摂食・嚥下機能に関してマニュアルの有無

全体	(施設)		
	ある	ない	無回答
316	58	246	12
100%	18.4%	77.8%	3.8%

(4) 認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事等の状況

ア 対応の困難さ

認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事に関連した問題への対応は、しばしば困難との回答が最も多く4割、次いでときどき困難が3割であった。この回答の割合は前回(平成 26 年度)とほぼ同じであった。

表 43 認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事等への対応の困難さ

	(施設)						
	全体	常に困難	しばしば困難	ときどき困難	困難ではない	経験がない	無回答
総数	316	44	142	101	9	15	5
割合	100%	13.9%	44.9%	32.0%	2.8%	4.7%	1.6%

イ 研修の有無

認知症の方の口腔ケア、食事に関連した問題への対応等に関する研修を行っている施設は 11.4%であり、前回(平成 26 年度)の 21.2%から大きく減少した。研修実施へのコロナ禍の影響が懸念される一方で、今後行いたいとの回答は 62.7%から 80.4%と増加しており、ステーションとしての関心は高いと考えられる。

表 44 認知症の方の口腔ケア、食事に関連した問題への対応等に関する研修の実施

	(施設)				
	全体	行っている	今後行いたい	行う予定ない	無回答
総数	316	36	254	23	3
割合	100%	11.4%	80.4%	7.3%	0.9%